

愛称：はぐくむニーサ(予想分配)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

マンスリーレポート

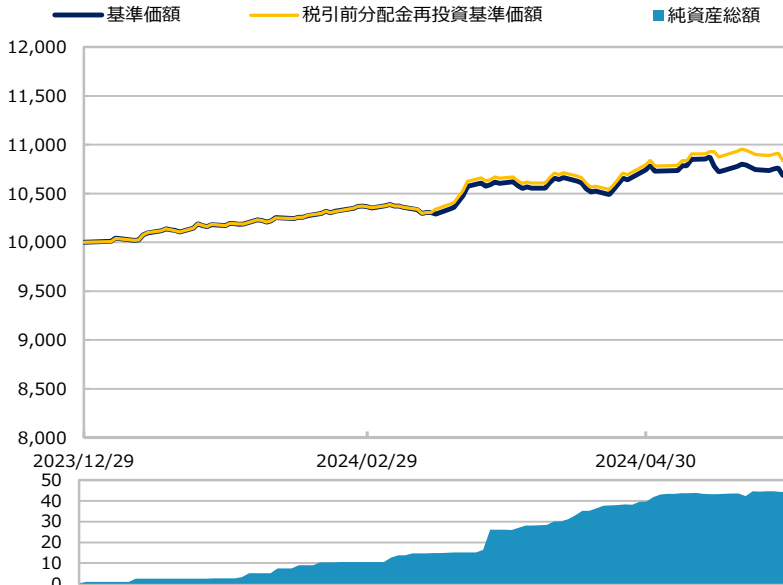
【投信協会商品分類】 追加型投信/内外/資産複合

作成基準日：2024年05月31日

ファンド設定日：2024年01月04日

日経新聞掲載名：はぐニー予想

基準価額・純資産総額の推移 (円・百万円)



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額 (円)	10,675	-66
純資産総額 (百万円)	44	+5

- 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率 (税引前分配金再投資) (%)

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/04/30	0.3
3 カ月	2024/02/29	4.4
6 カ月		
1 年		
3 年		
設定来	2024/01/04	8.3

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績 (税引前) (円)

期	決算日	分配金
第1期	2024/03/15	50
第2期	2024/05/15	100
設定来累計		150

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率 (%)

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	45.0	44.6	-0.4	+1.2
日本株式	22.5	21.6	-0.9	+0.7
グローバル株式	22.5	23.0	+0.5	+0.5
債券計	32.5	31.3	-1.2	+0.6
日本債券	10.0	9.4	-0.6	+0.3
海外債券	22.5	21.9	-0.6	+0.3
リート	22.5	21.4	-1.1	+0.4
現金等	0.0	2.7	+2.7	-2.2
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 各組入投資信託の正式名称は2枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因(円)

	寄与額
日本株式	+7
グローバル株式	+48
日本債券	-2
海外債券	+15
リート	-25
分配金	-100
その他	-8
合計	-66

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



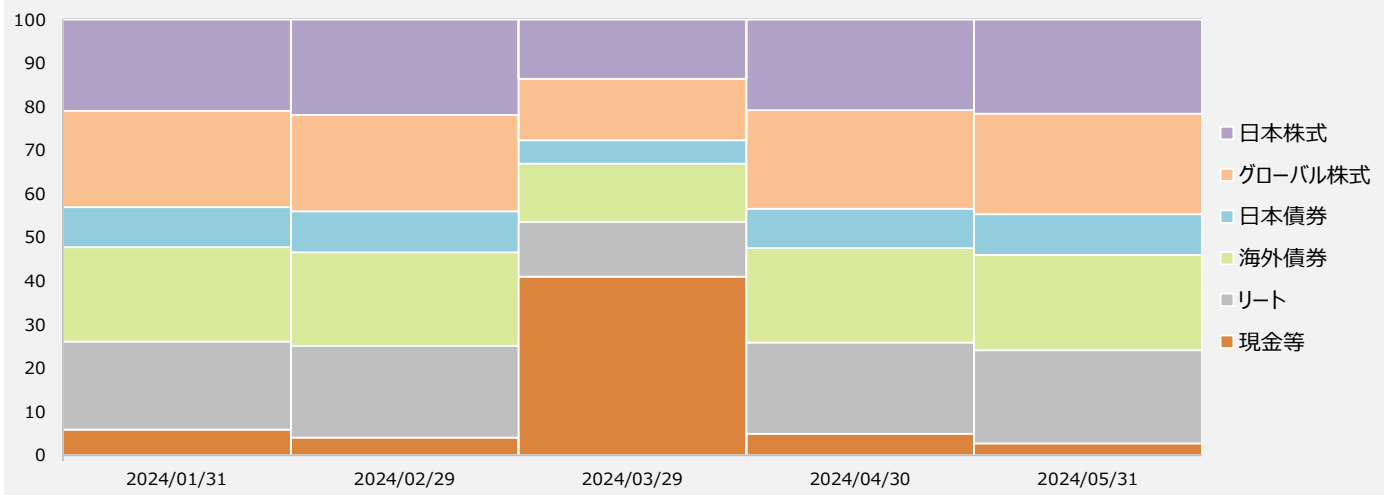
愛称：はぐくむニーサ(予想分配)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

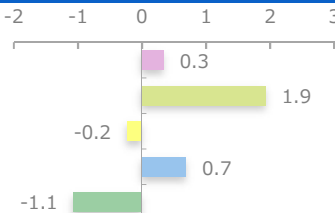
資産構成比率の推移 (%)



組入投資信託の騰落率 (%)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日本株式	0.3	2.4	-	-	-	9.2
グローバル株式	1.9	11.5	-	-	-	20.3
日本債券	-0.2	-0.2	-	-	-	-0.3
海外債券	0.7	4.1	-	-	-	8.3
リート	-1.1	2.3	-	-	-	0.5

当月騰落率 (%)



- ※ 日本株式の正式名称は「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」です。
- ※ グローバル株式の正式名称は「グローバル好配当株マザーファンド」です。
- ※ 日本債券の正式名称は「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」です。
- ※ 海外債券の正式名称は「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」です。
- ※ リートの正式名称は「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

ファンドマネージャーコメント

<運用経過>

各資産とも方針通り高位の組入れを継続しました。資産配分は、基本方針からの乖離が小さくなるように調整しております。

月間では、日銀関係者のデフレからの脱却に前向きなコメントで国内債券の利回りが上昇し、国内リート等が売られた一方で、好調な企業業績に支えられ、グローバル株式の価格が上昇したため、ファンドの基準価額は上昇しました。

<今後の運用方針>

引き続き、各投資信託を組み入れることにより、実質的に世界の株式、リート、債券に分散投資を行い、安定的なインカム収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(予想分配)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信/内外/資産複合

作成基準日：2024年05月31日

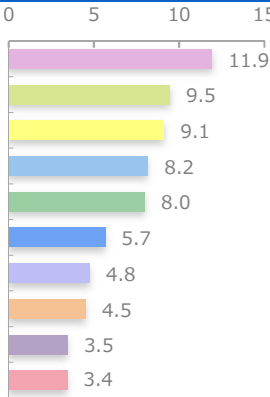
※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	97.6	+0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	2.4	-0.2
合計	100.0	0.0

組入上位10業種 (%)

	当月末	前月比
1 卸売業	11.9	-0.2
2 建設業	9.5	-0.2
3 情報・通信業	9.1	-0.0
4 サービス業	8.2	-0.1
5 銀行業	8.0	+0.5
6 電気機器	5.7	-0.3
7 小売業	4.8	-0.2
8 ガラス・土石製品	4.5	+1.1
9 不動産業	3.5	-0.3
10 機械	3.4	+0.1



※ 業種は東証業種分類です。

ポートフォリオ特性値 (%)

	ファンド	市場
予想配当利回り	3.7	2.3

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 「市場」はTOPIXの値を表示しています。
- ※ NPMのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄 (%)

		(組入銘柄数 96)	
銘柄	業種	比率	
1 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.4	
2 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.1	
3 MS & ADインシュアランスグループホールディングス	保険業	1.8	
4 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.5	
5 兼松	卸売業	1.5	
6 メイテックグループホールディングス	サービス業	1.5	
7 オカムラ	その他製品	1.5	
8 オリックス	その他金融業	1.5	
9 全国保証	その他金融業	1.5	
10 いすゞ自動車	輸送用機器	1.5	

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

5月の国内の株式市場は上昇しました。上旬は、米長期金利の上昇が一服したものの、政府・日銀による為替介入に対する警戒や3月期決算の国内企業が慎重な業績予想を示したことが重石となり、一進一退の展開となりました。中旬は、米インフレを巡る懸念が一旦和らいだことから、持ち直す展開となりました。ただし、米金融政策の先行きに対する警戒が残るほか、国内企業の決算発表において慎重な業績見通しを示す動きが続いたことが上値を抑えました。下旬は、米国で長期金利が再び上昇したことや、日銀の金融政策修正への思惑を受けて国内長期金利が上昇したことから、金融など一部の銘柄は堅調な値動きとなりました。しかし、全体としては上値の重い展開が続きました。業種別では、保険業、その他製品、電気・ガス業などが市場をアウトパフォームした一方、不動産業、陸運業、パルプ・紙などがアンダーパフォームしました。

<市場見通し>

世界経済は、中国景気の先行きを巡る警戒などは残るものの、米景気は堅調さを持続しているほか、中国除く新興国、日本、欧州に持直しが見られるなど、総じて底堅く推移しています。日本についても、海外経済の底堅い推移に加え、賃金および物価の上昇による好循環に入りつつあることを支えに、堅調さを維持すると想定します。株式市場は、高値圏でのみみ合いを予想します。短期的には国内企業が示した慎重な業績見通しが重石になるほか、根強いインフレに伴う米金融引き締め長期化懸念、日銀の金融政策修正を巡る思惑などから、値動きが荒くなることも予想されます。ただし、企業業績の持続的な改善、企業統治改革進展、デフレからの脱却などに対する中長期的な期待は続くと考えられ、徐々に水準を切り上げていくと予想します。

<運用経過>

個別銘柄の予想配当利回りに注目しつつ、業績見通しや財務状況、株主還元策を含めた経営戦略などを勘案しながら銘柄入替えを行い、ポートフォリオ全体の予想配当利回り水準の引上げに努めました。

<今後の運用方針>

「高水準の配当を継続できる銘柄に投資する」という観点で投資銘柄を選別していく方針です。企業の株主還元姿勢に加え、業績動向、キャッシュフローの創出力や配当余力など、様々な側面から銘柄を抽出し、ポートフォリオを構築していきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<ファンドマネージャーからのひとこと>

企業の3月期決算発表は5月半ばで終わりましたが、決算発表後の企業取材はまだまだ続いています。例年6月半ばくらいまで続きます。

さて、先月この場で書きましたが、今回の決算発表では、東京証券取引所による「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」を受けた、企業価値向上への具体策の発表が注目の一つとなっていました。それについての私の個人的な感想なのですが、確かに、企業価値向上の具体策の一つとして、株主還元を積極化させる企業は増えたと思うのですが、市場の期待ははるかに高くなっていたようで、全般的には相場を押し上げるような材料にはならなかったようです。

余剰資金や政策保有株の売却で得た資金を株主還元にあてることは企業価値向上につながるもので、株主還元積極化が株価上昇の牽引役の一つになることは、今後も変わらないとは思いますが、これまで株式市場が大きく上昇したこともあり、高い期待を既に株価が織り込んでいる銘柄も少なくないようです。

そしてこれも先月この場で書きましたが、今回の決算発表を機に、中期経営計画を発表する企業が多かったのですが、その内容を見ると、業績面について“拡大成長”を重視している企業が多いと感じています。私は、資本コストを意識し、低位な資本収益性を改善させるには、既存事業の収益性改善が最も重要であると考えています。経営者にとって、成長に資金を振り向けるよりも、既存事業にメスを入れ改善させることの方がよほど大変なことだと思います。そのような方針を決定し実行できる企業こそ、低位な資本収益性を本格的に改善させる銘柄になると考えており、そういった点に市場の注目が集まる日も遠くないと思います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(予想分配)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信/内外/資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	95.1	-0.3
先物等	0.0	0.0
現金等	4.9	+0.3
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	2.8	+0.0

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 配当利回りはBloombergのデータを基にした直近配当利回りです。Bloombergに配当情報がない銘柄は除いて算出しています。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	31.9	-0.2
2 フランス	14.8	-0.2
3 日本	11.8	-0.3
4 台湾	6.1	+0.2
5 オーストラリア	6.1	+0.2

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	31.9	-0.2
2 ユーロ	23.5	+0.3
3 日本円	11.8	-0.3
4 台湾ドル	6.1	+0.2
5 オーストラリアドル	6.1	+0.2

組入上位5業種 (%)

	当月末	前月比
1 半導体・半導体製造装置	14.0	+0.3
2 エネルギー	13.0	-0.8
3 資本財	10.5	-0.5
4 銀行	9.1	+0.5
5 素材	6.5	+0.1

※ 業種は、外国株式がGICS（世界産業分類基準）による分類、国内株式が東証業種分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 51)

銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1 トタルエナジーズ	フランス	エネルギー	6.0	4.4
2 台湾セミコンダクター	台湾	半導体・半導体製造装置	5.4	1.5
3 シェブロン	アメリカ	エネルギー	3.8	3.9
4 シュナイダーエレクトリック	フランス	資本財	3.7	1.5
5 テキサス・インスツルメンツ	アメリカ	半導体・半導体製造装置	3.2	2.6
6 アナログ・デバイセズ	アメリカ	半導体・半導体製造装置	3.2	1.5
7 エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	3.1	3.2
8 信越化学工業	日本	化学	3.0	1.7
9 ホーム・デポ	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	2.7	2.6
10 INGグループ	オランダ	銀行	2.5	6.8

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

【株式市場】

米国株式市場は上昇しました。金融政策に対する警戒感が広がっていたものの、FOMC（米連邦公開市場委員会）でパウエル議長が利上げ再開に対して否定的な見解を示したことを好感しました。雇用統計は市場予想よりも弱い内容となったことから、早期の利下げ期待も浮上し、株式市場の押し上げ要因となりました。中旬にS&P500インデックスが史上最高値を更新した後は、材料出尽くし感から上値の重い展開となりました。月を通じて見ると、AI関連市場の成長により好決算を発表したエヌビディアなどを中心に、ナスダック総合指数の上昇が目立ちました。

欧州株式市場は上昇しました。ドイツの景況感など域内景気に対する見方が改善するとともに、ECB（欧州中央銀行）の利下げ期待の高まりも押し上げ要因となりました。

アジア・オセアニア株式市場は台湾、香港などが上昇する一方、韓国やインドネシアなどが下落しました。中国の主要都市で住宅購入規制の緩和策が発表されたほか、中国人民銀行（中央銀行）が住宅の過剰在庫整理を目的とした資金供給を発表したことなどが香港市場では好感されました。

【為替市場】

米ドル/円は、一進一退となりました。月初、急速に円高が進んだことから、政府・日銀が円買い介入に踏み切ったとの観測が広がりました。しかし、日米の金利差は依然大きいままとの見通しから徐々に米ドルが買い戻され、月末には前月末と概ね同水準となりました。

ユーロ/円は、上昇しました。月初は米ドル/円の急激な下落を受けてユーロ/円も下落しましたが、その後ECB高官のタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な発言などを受けて上昇に転じました。

<運用経過>

当ファンドは、景気変動の影響を受けにくい業種に軸足を置き、減配リスクを考慮した運用を行いました。当月は、足元の株価上昇により配当利回りの観点から割安度が低下した米国の半導体関連や英国の医薬品関連の銘柄を一部売却しました。一方、足元の魅力的な配当利回りに加えて、グローバル企業による中国からアセアンなどへの生産拠点のシフトから恩恵を受ける、アジア域内専門のコンテナ海運銘柄を新規に購入しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場見通し>

【株式市場】

米国株式市場では、企業業績は大型テクノロジー企業で概ね好調が持続しており、製造業でも回復傾向が徐々に明らかとなっています。インフレの再加速が見られない限り、こうした業績の回復に伴って、株式市場はレンジが切り上がる動きを予想します。ただし、先々の利下げや企業業績の回復は徐々に株価に織り込まれつつあり、大統領選に向けた政治的不透明感の高まりが警戒される場面も想定されることから、上昇基調は緩やかにとどまるとみています。

欧州株式市場も、物価上昇への対処に目途が付きつつあり、ECBによる利下げの実施が予想されます。中国の政策対応や域内景気の安定化が支援材料となることから上昇の維持は可能とみています。

地政学リスクや中国における不動産市場の動向などが不透明感として残りますが、製造業の回復などに牽引されて世界経済が底堅く推移する見込みであることや、中国政府が景気浮揚に向けた取組みを積極化していることなどから、アジア・オセアニア株式市場も安定化すると予想します。

【為替市場】

米ドル/円は、日米金利差が依然大きいと、当面米ドルは高値圏で推移する展開が予想されます。その後は、FRB（米連邦準備制度理事会）の利下げ開始や日銀による追加利上げが想定されることから、年末にかけて緩やかな米ドル安・円高となる展開を予想します。

ユーロ/円は、当面ユーロは高止まりが予想されるものの、その後は、ECBによる利下げや日銀による追加利上げが想定されることから、年末にかけて緩やかなユーロ安・円高となる展開を予想します。

<今後の運用方針>

当面の株式市場は、全体では緩やかな上昇が継続する一方で、一握りの大型テクノロジー企業が市場全体をけん引した2023年と異なり、より広範囲な業績・配当面で上方修正の余地がある銘柄の循環物色が続く可能性があります。

当ファンドは、過去の実績や経営陣の手腕等により、増配に必要な利益とキャッシュフローを継続的に増大させてきた「質の高い企業」の中から、主として足元の配当利回りと今後の配当成長性に着目し、財務の安定性や流動性を十分に考慮したうえで、世界各国の市場平均と比べて相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

また、企業の収益動向や配当政策などの変化に注目し、今後の継続的な増配が見込める企業へも投資します。引き続き、以下の3点を重視します。

1. 「経営実績や経営陣などの「会社の質」と配当実績が優れていること」
2. 「数年先までの成長持続性、売上やキャッシュフロー成長の確実度が高いこと」
3. 「今後の資本政策、特に配当を含む株主還元のスタンスが明確なこと」

「好配当株」企業への投資は、足元の相対的な配当利回りが高いだけでなく、今後、長期にわたり増配が続くという、「配当の成長」も重要です。優れた経営を実践している「質の高い」企業は配当政策など株主還元への姿勢も明確であり、投資家は定期的に配当収入を受け取りながら中長期の企業価値の成長（キャピタルゲイン）からも恩恵を受けることができます。

昨今の投資環境の変化を受けて、「好配当株」投資においても、今後の配当成長率と比較して足元の配当利回りが相対的に高い銘柄がより注目される可能性があります。当ファンドは、引き続き、配当利回りと配当成長率のバランスを重視した銘柄選択による安定的なパフォーマンスの実現を目指してまいります。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(予想分配)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信/内外/資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	93.4	-0.2
現金等	6.6	+0.2
合計	100.0	0.0

※ 現金等に先物等を含めた値です。

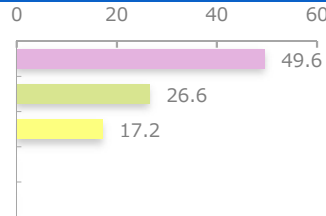
ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	3.1	+0.0
残存年数 (年)	6.7	+0.2
デュレーション (年)	5.6	+0.2
直接利回り (%)	3.1	+0.0
最終利回り (%)	3.2	+0.1
平均格付け	A	A

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 繰上償還条項が付与されている場合は、原則として繰上償還発効日を償還日とみなして算出しています。
- ※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨 (%)

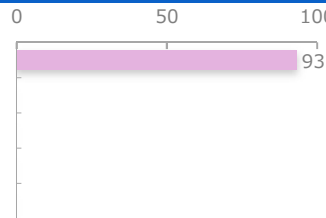
	当月末	前月比
1 日本円	49.6	-0.3
2 アメリカドル	26.6	+0.2
3 ユーロ	17.2	-0.2



※ 為替ヘッジ前の値です。現金等を除く。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 日本	93.4	-0.2



種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	0.0	0.0
地方債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
事業債	93.4	-0.2
円建外債	0.0	0.0
その他債券	0.0	0.0

格付構成比率 (%)

	当月末	前月比
AAA	0.0	0.0
AA	3.4	-0.0
A	69.5	-0.3
BBB	20.5	+0.1
BB以下	0.0	0.0

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 23)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ社債	ユーロ	日本	4.636	6.0	6.2
2 富国生命保険相互会社社債	アメリカドル	日本	6.800	9.5	6.0
3 東日本旅客鉄道社債	ユーロ	日本	4.110	18.7	5.7
4 朝日生命保険相互社債	アメリカドル	日本	6.900	3.7	5.5
5 野村ホールディングス社債	アメリカドル	日本	6.070	4.1	5.5
6 みずほフィナンシャルグループ社債	ユーロ	日本	4.416	9.0	5.3
7 住友生命保険社債	アメリカドル	日本	5.875	9.6	5.2
8 日本生命保険社債	アメリカドル	日本	2.750	6.6	4.4
9 1 JERA 劣後FR	日本円	日本	2.144	3.6	3.4
10 4 損保ジャパン劣後債	日本円	日本	2.500	8.7	3.4

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<5月の債券市場>

国内の長期金利（10年国債利回り）は、上昇しました。

月初は小動きで始まりましたが、連休明けに日銀総裁と首相が会談して以降、日銀からの発信がハト派（景気を重視する立場）的過ぎないものに軌道修正されたと市場が受け止めたことから、長期金利は上昇基調となりました。また、中旬に日銀が市場の予想外のタイミングで国債買入れの減額に踏み切ったことも、長期金利の上昇を後押ししました。その後も、さらなる国債買入れの減額や先行きの追加利上げへの警戒感が強く、月末にかけて長期金利の上昇基調が継続しました。

国内社債市場では、社債スプレッド（国債に対する上乘せ金利）は横ばい圏で推移しました。金利先高観測を背景に社債発行が増加したものの、クレジットファンダメンタルズが良好であることに加え、利回り上昇を好感した投資家の買いニーズも相応にみられたことから、社債市場は底堅く推移しました。

<5月の運用>

信用力に大きな懸念のない銘柄に厳選したポートフォリオを継続しました。また、信用力対比割高な銘柄から割安な銘柄への入れ替えも実施しました。金利ヘッジ戦略においては、金利の見通しに合わせて適宜ポジションを調整しました。

<今後の見通しと運用方針>

国内景気は足踏みしているものの、先行きはインフレ鈍化や賃金上昇が内需のサポートとなり、緩やかな回復基調に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、政策効果の剥落による一時的な上昇の後、輸入物価を起点とするコストプッシュ圧力の弱まりにより緩やかに減速基調となるものの、+2%程度の伸び率を維持できる見通しです。日銀はマイナス金利政策を解除しましたが、物価安定の目標達成が視野に入らる中でさらなる利上げを行う可能性が高く、国債買入れも先行きは減額方向と見込まれることから、国内金利への上昇圧力がかかりやすいものと想定します。一方で、先行きの利下げを意識した欧米金利の動向は、国内金利の上昇幅を抑制する見込みです。

国内社債市場では、緩和的な金融環境や良好なクレジットファンダメンタルズを背景に、社債スプレッドが縮小傾向で推移することを想定します。

当ファンドでは、信用力に大きな懸念のない銘柄を組入れ、安定的な収益の確保に努めます。また、金利の見通しに合わせて、金利のヘッジも機動的に行っていく方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(予想分配)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信/内外/資産複合

作成基準日：2024年05月31日

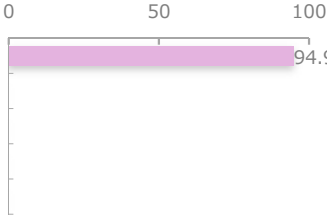
※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	94.9	+0.5
先物等	0.0	+1.6
現金等	5.1	-2.1
合計	100.0	0.0

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	94.9	+0.5

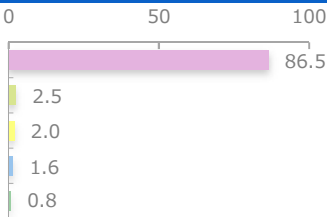


ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	3.8	+0.0
残存年数 (年)	7.3	-0.4
デュレーション (年)	5.6	-0.2
直接利回り (%)	4.0	-0.0
最終利回り (%)	5.0	-0.0
平均格付け	A	A

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	86.5	+0.4
2 フランス	2.5	+0.0
3 カナダ	2.0	+0.0
4 オランダ	1.6	+0.0
5 シンガポール	0.8	+0.0



種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	0.0	0.0
州政府債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
国際機関債	0.0	0.0
社債	94.9	+0.5
その他	0.0	0.0

格付構成比率 (%)

	当月末	前月比
AAA	0.4	+0.0
AA	12.6	+0.5
A	65.7	+0.4
BBB	16.3	-0.4
BB以下	0.0	0.0

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 216)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 コカ・コーラ社債	アメリカドル	アメリカ	2.900	3.0	1.9
2 ベライゾン・コミュニケーションズ社債	アメリカドル	アメリカ	4.329	4.3	1.6
3 ウォルト・ディズニー社債	アメリカドル	アメリカ	2.950	3.0	1.4
4 コモンウェルス・エジソン社債	アメリカドル	アメリカ	2.950	3.2	1.4
5 サーマフィッシャーサイエンティフィック社債	アメリカドル	アメリカ	5.404	19.2	1.3
6 エステイロージャー社債	アメリカドル	アメリカ	3.150	2.8	1.2
7 ケンビュー社債	アメリカドル	アメリカ	5.100	18.8	1.1
8 ユニリーバ・キャピタル社債	アメリカドル	アメリカ	3.500	3.8	1.1
9 パブリックサービス・エレクトリック・アンド・ガス社債	アメリカドル	アメリカ	3.000	3.0	1.1
10 ギリアド・サイエンシズ社債	アメリカドル	アメリカ	1.650	6.3	1.1

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<5月の相場概況>

米国では、長期金利（10年国債利回り）は低下しました。月前半はFOMC（米連邦公開市場委員会）後のパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の記者会見の内容が市場予想ほどタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的ではなかったことに加え、雇用統計での雇用者数や賃金の伸びが市場予想を下回ったことなどから金利は低下しました。月後半には、市場がFOMC議事要旨の内容をタカ派的と捉えたことや、経済指標が市場予想を上回ったことなどを背景に金利は上昇し、月中の低下幅を縮めました。

社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は、金利低下による市場センチメント（心理）の改善や底堅い米企業決算などに下支えされ、月間では小幅に縮小する動きとなりました。

米ドル/円は、一進一退となりました。月初、急速に円高が進んだことから、政府・日銀が円買い介入に踏み切ったとの観測が広がりました。しかし、日米の金利差は依然大きいままとの見通しから徐々に米ドルが買い戻され、月末には前月末と概ね同水準となりました。

<5月の運用状況>

社債市場における良好な需要を背景に、一部保有債券から新発債に入れ替え、ポートフォリオの流動性を高めました。飲料のコカ・コーラや電力のアリゾナ・パブリック・サービスなどの新発債を購入しました。

A格の組入比率を最大として、業種別では安定業種（消費・公益・通信）が過半となるように組み入れています。新発債についてはスプレッドの厚いBBB格にも配分し、全体の平均格付けをA格としています。

<今後の市況見通し>

米国では、足元の雇用・インフレ統計を受け利上げ再開懸念は後退したものの、インフレ鈍化は道半ばであり、当面金利はもみ合う展開を予想します。その後は、これまでの金融引き締めによる効果からインフレ鈍化と景気減速が徐々に進むことでFRBによる利下げ開始が想定され、年末にかけて金利は緩やかに低下する展開を予想します。

社債市場については、利上げにより引き締まった金融環境が徐々に緩和すると想定されます。また、米国の企業業績は底堅く、社債スプレッドは安定的に推移するものと予想します。

米ドル/円は、日米金利差が依然大きいいため、当面米ドルは高値圏で推移する展開が予想されます。その後は、FRBの利下げ開始や日銀による追加利上げが想定されることから、年末にかけて緩やかな米ドル安・円高となる展開を予想します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(予想分配)

マンスリーレポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜投資方針＞

以上の投資環境見通しをベースに、社債発行企業の信用力評価や個別証券の投資価値に着目して、銘柄選択を行っていきます。ポートフォリオ全体の業種配分は安定業種を多めとし、格付け配分についてはA格以上を中心とします。金融政策正常化の過程で社債利回りは当面落ち着きどころを探す展開になると見込まれるため、引き続き慎重に買い場を探す姿勢で臨みます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(予想分配)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信/内外/資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	5.0	+0.2

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 配当利回りは予想配当利回りです。
- ※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10カ国・地域 (%)

	比率	配当利回り
1 日本	48.3	4.6
2 シンガポール	20.4	6.4
3 オーストラリア	17.8	3.6
4 香港	7.6	7.7
5 インド	3.1	6.3
6 ニューージーランド	1.2	3.1

組入上位10通貨 (%)

	当月末	前月比
1 日本円	48.3	-0.4
2 オーストラリアドル	17.8	+0.2
3 シンガポールドル	14.5	+1.4
4 香港ドル	7.6	+0.4
5 アメリカドル	5.9	-0.7
6 インドルピー	3.1	+0.0
7 ニューージーランドドル	1.2	-0.4

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 37)

	銘柄	国・地域	比率	配当利回り
1	リンク・リート	香港	7.6	7.7
2	グッドマン・グループ	オーストラリア	7.6	0.9
3	デジタル・コア・リート・マネジメント	シンガポール	5.9	7.1
4	大和ハウスリート投資法人	日本	5.5	4.6
5	コンフォリア・レジデンシャル投資法人	日本	5.1	3.5
6	インヴェンシブル投資法人	日本	4.6	4.5
7	産業ファンド投資法人	日本	4.3	5.4
8	日本ビルファンド投資法人	日本	4.2	3.9
9	オリックス不動産投資法人	日本	4.1	4.8
10	キャピタルランド・インテグレートッド・コマーシャル・トラスト	シンガポール	3.3	5.5

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用Jリート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「Jリート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

5月のアジア・オセアニアリート市場は、オーストラリアが上昇し、シンガポールはほぼ横ばい、日本と香港は下落しました。

Jリート市場は、月の前半は底堅い値動きでしたが、日銀が金融政策の正常化プロセスを早めるとの思惑から長期金利（10年国債利回り）が1%を超える水準まで上昇したことで、月半ば以降は下落基調で推移しました。

シンガポールリート市場は、緩やかに経済成長が続く中、底堅く推移しました。

香港リート市場は、人民元安を背景に香港の消費が中国本土に流出する動きが継続する中、大手商業施設リートを中心に今後の業況悪化が懸念されて軟調となりました。

オーストラリアリート市場は、今後の金融政策に対する警戒感が広がる中、米国においてFOMC（米連邦公開市場委員会）でパウエル議長が利上げ再開に対して否定的な見解を示したことが波及して警戒感が後退し、上昇しました。

<運用経過>

マザーファンドの運用は、エリア及び銘柄毎の魅力度に応じ、リバランス（投資配分比率の調整）を実施しました。

<市場見通し>

【日本】

Jリート市場は、堅調な不動産ファンダメンタルズ（基礎的条件）を背景に水準回復が進むことを想定します。足元は日銀による利上げを見越して金利の先高感が意識されており、利上げの政策修正が実現するまではJリート市場の重石に働くと考えます。他方、Jリートのファンダメンタルズに目を向けると、譲渡益が発生する資産入替えや内部留保の厚み、不動産賃貸市場の状況を勘案すると、DPU（一口当り分配金）の低下リスクは限定的であり、資本効率を意識した自己投資口の取得やスポンサーサポートを強化すべくスポンサーによる傘下リートの投資口取得といった事例が増えてきています。金融市場が落ち着きを取り戻せば、このような自助努力がJリート市場の評価につながるとみています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

【アジア・オセアニア】

アジア・オセアニアリート市場は、ファンダメンタルズに基づいた評価に加えて、各地域の景気動向や金融政策を見据えた投資を行っていきます。

シンガポールリート市場は、堅調なパフォーマンスを想定します。

シンガポール国内では、グローバルに金利の先行き不透明感が後退しつつあることを背景に、年初来、不動産売買が活発化する傾向にあります。今後リート各社による資産入替の進展が期待されることに加えて、財務の改善や売却資金を活用した自己投資口の取得などへの期待が同市場を支えるとみています。

香港リート市場は、変動性の高い展開とみます。

足元は中国当局による景気対策や株式市場活性化策により、香港リートへの投資家心理が改善しつつあります。ストックコネクト（上海・深セン－香港株式相互取引制度）への香港リート追加の実現をはじめ、7月の三中全会に向けてさらなる支援期待が高まっている点はポジティブです。一方で人民元安に加えて深センへの交通アクセス向上を背景に、中国本土への消費の域外流出が続いており、大手商業施設リートを中心に抜本的な見直しには時間を要するとみています。

オーストラリアリート市場は、一進一退の動きとみます。

目先は経済指標や金融当局のスタンスによって投資家心理が振られやすい状況にありますが、米国を中心に金利の先行き不透明感が徐々に後退していく中では、業績回復を見通せるリートへの注目が高まる展開を想定します。

(ESGトピック)

日本では観光客の賑わいがニュースとなっていますが、今夏オリンピック開催が迫るパリでもまた観光客による賑わいが見られているようです。

さて当月は2032年に夏季オリンピック開催が予定されている都市、ブリスベンのリート物件をご紹介します。

オーストラリアリート大手のミルバック（以下、MGR）が保有するオフィス、ヘリテージレーンは、最もグリーンなオフィスビルの一つとして高く評価されています。元は文化遺産に登録されている青物市場がありましたが、市場の建物を保存しながら、35階建てのオフィスビルとして再開発されました。一般的に、ビルの建設には多くの温室効果ガスが排出されることが問題視されています。ヘリテージレーンの建設にあたっては低炭素コンクリートが使用され、建設ごみの90%以上がリサイクルされました。

MGRはすでにいち早くSCOPE1・2【※】のネットゼロ（温室効果ガス排出量実質ゼロ）を達成済ですが、

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

2030年までにSCOPE3でネットポジティブ（温室効果ガス排出量を実質改善させる）目標を掲げており、温室効果ガス排出量削減だけではなく、気候変動の解決を目指す先進的なリートです。MGRの今後の取組みに注目しています。

【※】SCOPE1・2・3とは、GHG排出量の測定においてサプライチェーン（供給網）のどこで発生したかによって分別する仕組み

SCOPE1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。

SCOPE2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出。

SCOPE3：SCOPE1,2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

<今後の運用方針>

上記見通しに基づき、今後もファンドの基本コンセプトである、「収益の成長性に加え、配当利回りなどのバリュエーション（投資価値評価）に着目した運用」を行います。アジア・オセアニアリートにはリート投資だけでは得られない際立った魅力（高水準の利益成長の実現、リートよりも高い配当利回りなど）を持った銘柄があります。外部環境にも留意しながら、引き続き個別銘柄選択を重視し、ファンドを特徴づける魅力的な銘柄群に投資する方針です。

また、我々はアジア・オセアニアリートにおいてESGリサーチを行っていますが、コロナ禍を経てESGの重要性がさらに高まっています。ESGリサーチを活用したリートとの対話を通じて、リートの企業価値の向上を図り、ひいてはファンドのパフォーマンスの改善、リート市場のサステナビリティ（持続可能性）向上を推し進めていく所存です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

ファンドの特色

- 投資信託への投資を通じて、世界各国の債券、株式、リートに分散投資します。
 - 各資産への投資は、以下の投資信託証券を通じて行います。

日本株式	FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）
グローバル株式*1	グローバル好配当株マザーファンド
日本債券*2	FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）
海外債券	コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド
リート	FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）

 - *1 日本株式を含みます。
 - *2 日本の民間企業またはその子会社のほか、国、地方公共団体および政府関係機関が発行する外貨建債券を含みますが、原則として対円での為替ヘッジを行います。
 - 投資信託証券は、投資対象資産、投資手法および費用等を考慮して選定します。
- 安定したインカム収益を長期的に獲得することを目的として、基本資産配分は原則として固定配分とします。
 - それぞれの資産の時価変動等に伴う各資産比率の変化については、一定の範囲を設けて調整を行います。
 - 市場環境等が大きく変化した場合、基本資産配分の見直しを行う場合があります。※基本資産配分は、安定したインカム収益の長期的な獲得を目的とするとともに資産間のバランス等を勘案して決定します。ただし、投資対象とする資産やその配分比率は見直しを行う場合があります。
- 実質組入外貨建資産の一部に対して、対円での為替ヘッジを行うことがあります。
 - 基準価額は、為替ヘッジを行わない実質組入外貨建資産に対する為替変動の影響を受けます。
- 原則として、奇数月の15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。各計算期末の前営業日の基準価額（支払済み分配金（1万口当たり、税引前）累計額は加算しません。）に応じて、原則として、以下の金額の分配を目指します。

各計算期末の前営業日の基準価額	分配金額（1万口当たり、税引前）
10,500円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
10,500円以上11,000円未満	100円
11,000円以上12,000円未満	110円
12,000円以上13,000円未満	120円
13,000円以上14,000円未満	130円
14,000円以上	140円

※分配対象額が少額な場合、各計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行わないことがあります。

<ご留意いただきたい事項>

- 基準価額に応じて、分配金額は変動します。
- 基準価額があらかじめ決められた水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
- 分配を行うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。
- あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。



三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

【リーートの価格の下落は、基準価額の下落要因です】

リーートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリーートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリーートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【部分的な為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は軽減されます】

ファンドは、実質組入外貨建資産の一部について対円での為替ヘッジを行うことがあります。為替ヘッジが行われていない部分については為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

為替ヘッジが行われている部分については為替変動の影響を受けますが、原則として対円での為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。



愛称：はぐくむニーサ(予想分配)

マンスリーレポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

投資リスク

その他の留意点

- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

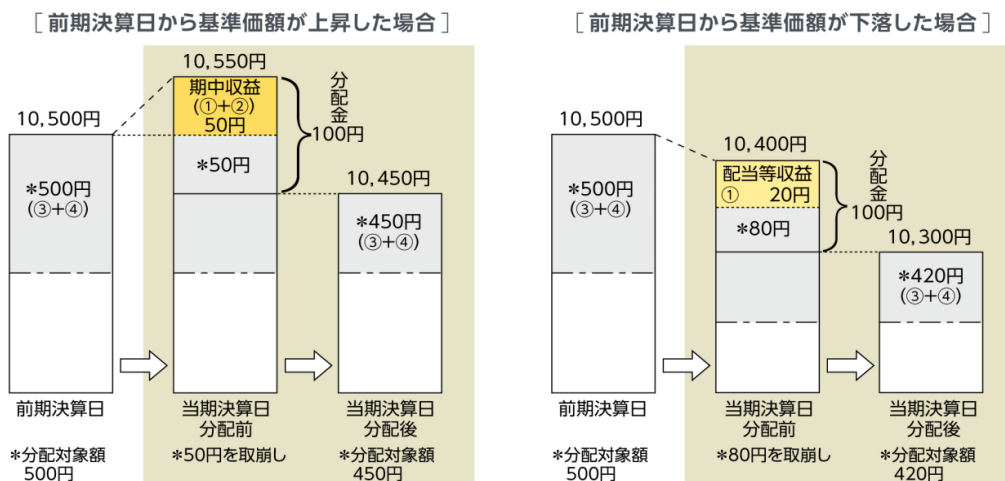
分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

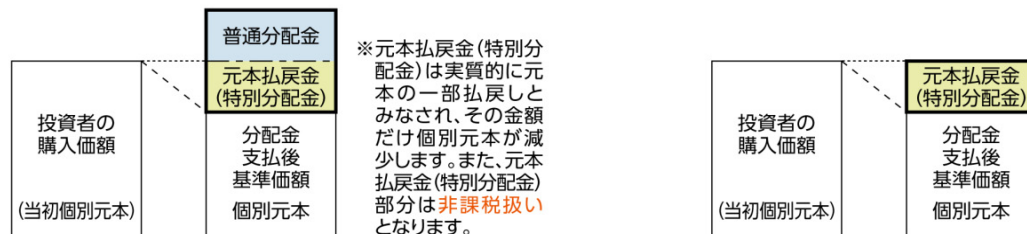


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

[分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合] [分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合]



普通分配金：個別元本（投資者のファンド購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額（当初自己設定は1口=1円）

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2024年1月4日設定）

決算日

毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の15日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。



愛称：はぐくむニーサ(予想分配) 三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30% (税抜き3.00%) を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.13%**を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年0.957% (税抜き0.87%)**の率を乗じた額です。
※投資対象とする投資信託の運用管理費用を含めた場合、**年0.9812% (税抜き0.892%) 程度**となります。ただし、実質的な負担は、有価証券届出書提出日現在の投資対象とする投資信託の運用管理費用（信託報酬）に基づき記載しています。投資対象とする投資信託、もしくはその運用管理費用（信託報酬）が変更となった場合には、実質的な負担も変更となる場合があります。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：はぐくむニーサ(予想分配)

マンスリーレポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(予想分配金提示型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年05月31日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社北九州銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第117号	○			○		
株式会社富山第一銀行	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第7号	○					
株式会社もみじ銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第12号	○			○		
株式会社山口銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第6号	○			○		

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見直しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.